

## 「野茂・前」と「野茂・後」

豊澤 幸平

私は昨年六月、ピッツバーグに行き、野球のピッツバーグ・パイレーツの本拠地を訪問、これで「MLBの全三〇球場訪問」を足掛け二十五年かけて達成した。東はニューヨーク、西はサンフランシスコ、北はトロント、南はマイアミ、東西約四千五百km、南北約二千七百公里にまたがるBall Parkを制覇した。

私は小さいころから野球に興味があつたが、MLBに興味を持ったのは小学生の約六五年前、自宅のラジオから聞こえてきたワールドシリーズのNHK放送が子供心に強く残つた。

それから約四十年の時が経つた一九九八年に米国駐在になり、「そうだこの機会に小さい頃からの憧れのMLBを見よう、それも全ての球場を回るう」と思い立つた。MLBや球場の魅力、日本の野球との違い、珍道中は後日お伝えしたい。

さて昨年末以降、大谷のことが大きく報道されている。日本人、日本の野球が大きく取り上げられており、これは素晴らしいことだ。日本人にもこれだけのことをやれる人は出てきたことで、こと野球に限らず、日本全体への評価も大いに変わりつつある。大谷の選手としての素晴らしさに加え、人としての立ち振る舞いに人は感動している。

しかしながら日本の野球選手がアメリカに渡り自由に活躍が出来るようになったのは、イチローや松井がいたからではない。今回の一連の報道を見て、一つ何か忘れていませんかと問いたいことがある。

それは野茂選手のことだ。中国には、「井戸を掘つた人」という諺があるが、日本の野球人にメジャーリーグへの道を切り開いたのは野茂選手である。私は、野茂選手がMLBで投げ始めた一九九五年を元年、それを境に、「野茂・前」、「野茂・後」と呼んでいる。

野茂選手の功績は、今回も一部の方々に再評価、再認識されているが、マスコミ、野球関係者から大きな声として出てきていないことを私は大変残念に思う。

(二〇二四年一月)

脚注：MLBとは「Major League Baseball」。米国カナダ所在の三〇球団で編成されている世界の最高峰のプロ野球リーグ。